

報告 1 . 市民懇談会報告会・パブリックコメントについて

(1) 市民懇談会報告会の概要

日 時 平成 22 年 7 月 3 日 (土) 10 : 00 ~ 12 : 00
場 所 塩竈市公民館 2 階 大会議室
出席者 市民懇談会 : 活力づくり分科会 7 名、うるおいづくり分科会 7 名、ふくしづくり分科会 1 名、ひとづくり分科会 4 名、みらいづくり分科会 1 名
塩 竈 市 : 市長、副市長、教育長、各部長、事務局
概 要 「 策定の経過について」、「 第 5 次長期総合計画基本構想 (検討案) について」を報告後、意見交換を行った。

出された主な意見

「都市像」

都市像である「おいしさと笑顔がつどう みなとまち 塩竈」の言葉はとても良いと思う。

「おいしさと笑顔がつどうみなとまち塩竈」の都市像は非常にソフトで分かりやすく、なかなか要素が詰まっていると思う。

「人口フレーム」

日本全国でも世界でも少子化・高齢化だが、これは自然現象で仕方がないと思う。人口対策よりも観光と商業対策により地域経済を活性化させて税収を増やせばいいのではないか。

少子高齢化の問題は社会的な問題なので、自治体が頑張っても改善出来ないのではないか。むしろ、市民が塩竈らしさを感じ、それを P R すれば交流に結びつくと思う。

人口フレームを達成するための人口減少対策については、塩竈の地形の問題を考えると並大抵のことではないと思う。相当に研究しないと定住人口を増やすのは難しいことだと思う。

お年寄りが元気でいつまでも活躍できる社会になれば、当分は人口減少の心配はないと思う。お年寄り が活躍できる場をいかに設けるかが重要な気がするし、それが明確にされていなかったなのでその辺が少し気になった。

「計画の優先順位」

塩竈市が目標とする全体像、これからどうしていけばいいのか、優先すべき事業をどのような順番にしていくのかが書いてあると分かりやすいと思う。

今回の計画では、重点課題の1番目は「塩竈らしさを感じさせるまちづくり」、2番目を「市民力の強化」とすべきである。

塩竈市の主要課題に順番づけをするのではなく、6つ全てに取り組む必要があると思う。取り組むにあたっては健全な財政運営をお願いしたい。

「市民協働」

ただ住んでいる人にとって総合計画は特に気にしないものとなっている。「計画の重要性和市民意識のギャップをどのように修正していくか」ということをしっかりと吟味していただきたい。

計画を誰が実行するのと考えた時に、子ども達に学校で「長期総合計画というのを塩竈でやるんだよ」と教えたり、考えさせる工夫をしていけたら良かった。私たちがひとづくり分科会で提言した内容についてはすごく盛り込んでいただいて、すごい計画が出来上がってきたと思う。今後、策定される基本計画で、20代から40代の市民参加の手法を検討していただければと思う。

「その他」

都市像を分解していくと定住・交流・連携に集約されていくかと解析した。計画書中の全体像図を整理し、塩竈市がこれから目指す方向がひと目で分かるようなまとめ方をしてほしい。

仙台のベッドタウンとして塩竈は便利だというイメージを発信すると良いと思う。産業の活性化は市場マーケットの関係などでそう上手くいかないと思う。やはり新しい観光産業、ベンチャー企業など今までの塩竈に無いようなものと呼んで来るべきではないか。規模が小さいがゆえに、新たに進出してくる企業、定住する方にも対応が出来ると思う。

保健、医療、福祉というのは国の施策なので市の独自の施策というものはなかなか反映されにくい部分があるが、塩竈市は量的には充足してきているのではないか。市の財政的な制約を考慮した際、地域社会での支え合いは大変重要であると考えているが、計画にそういった部分を盛り込んでいただいたこと、意見を取り上げていただいたことに関しては良かったと思う。

塩竈は食べ物が美味しく適当に田舎なので、いい所に住んだと満足している。他の方も塩竈の魅力を感じてくれたらいいなと思う。

(2) パブリックコメントの実施について

趣 旨	第5次塩竈市長期総合計画に対して市民の意見を募集し、計画に反映させるため	
実施期間	広報誌による意見募集	平成21年6月～
	冊子・ホームページによる意見募集	平成22年7月5日～
実施方法	「広報しおがま」に長期総合計画をシリーズとして毎号掲載し、意見を募集 基本構想（検討案）について ・市内の各公共施設に冊子と意見提出用紙を設置し、意見を募集 設置場所 市役所本庁舎、社会福祉事務所、図書館、公民館、ふれあいエスプ、保健センター、体育館、温水プール ・市ホームページに掲載して、意見を募集	